

# 主催者挨拶

浜中 裕徳  
環境省地球環境審議官

地球環境審議官の浜中裕徳でございます。

「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」の開催に当たりまして、主催者である環境省を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

まずは、ここ広島において開かれる本国際シンポジウムに海外及び全国からご参集いただきました科学者、産業界、NGO、行政からご参集いただきました方々に、歓迎と感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

今日の社会において、内分泌攪乱化学物質の問題は、人間と生物に対して、世代を超えた深刻な影響をもたらすおそれがある、環境保全上の重要な課題の一つであります。

しかしながら、問題とされる化学物質について、内分泌攪乱作用を有するかどうかを判定するための試験方法やリスク評価の手法が未確立であるなど、科学的には未解明な点が多く残されており、OECDを中心に専門家の国際的な連携の下に、試験法の考案・開発を行うべく、我が国を含む先進国で協力・分担して取組が進められています。

- ① 日本におきましても、私ども環境省では、1998年に「環境ホルモン戦略計画 SPEED'98」を策定し、内分泌攪乱作用が疑われる化学物質のリストを作り、その環境リスク評価を順次進めております。その結果、「ノニルフェノール」と「4-オクチルフェノール」については、魚類に対する内分泌攪乱作用を有することが確認されました。
- ② また、本問題に取り組むには、国際的な連携・協力のもとに調査研究を進めることが重要であり、世界の第一線において御活躍中の研究者の御参加の下に、我が国で平成10年度から毎年本国際シンポジウムを開催し、科学的・専門的な立場から幅広く議論をいただいております。

本日の一般向けプログラムは、産業界、NGOを含め国民の皆様方に内分泌攪乱化学物質問題についての認識を高め、身近な問題としてお考えいただけるように企画しております。皆様方がこの問題に対する理解を一層深め、共に解決の道を探る契機になることを期待いたしております。

私どもといたしましては、本問題をはじめ、世界が直面する様々な環境問題の解明と解決のため、我が国が国際社会との協力のもとに、さらに力を尽くしてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催準備に多大な御協力をいただきました「環境ホルモン学会」の会員の皆様方、並びに御協力をいただきました「広島県・広島市」、「広島大学」（御支援いただきました先生方）をはじめ、関係者の皆様方に心からお礼を申し上げまして私の御挨拶とさせていただきます。